

資源評価調査委託事業・ブリ

田中友樹

目 的

我が国周辺水域の資源評価対象種のうち青森県沿岸のブリを対象に、資源評価を行うための基礎データを収集する。なお、本調査は、水産庁の水産資源調査・評価推進委託事業の一環として実施した。

材料と方法

青森県のブリ漁獲量について、深浦町から中泊町までを日本海、外ヶ浜町から東通村岩屋までを津軽海峡、蓬田村からむつ市脇野沢までを陸奥湾、東通村尻屋から階上町までを太平洋の4海域に分け、各海域についてまき網、定置網及びその他の漁法に区分し、「青森県海面漁業に関する調査結果書」¹⁾を基に取りまとめた。日本海の新深浦町漁協本所と深浦漁協及び太平洋の尻屋漁協と尻労漁協の定置網によるブリの銘柄別漁獲量について取りまとめ、表1を基準に体重を1.5 kg未満、1.5 kg以上4 kg未満及び4 kg以上の3階級に分けて漁獲量を集計した。太平洋の尻労漁協については規格・銘柄が時期によって変動するなど曖昧であるため、尻屋漁協と同様であるとして集計した。また、新深浦町漁協本所と深浦漁協については、表2に示した月別規格銘柄と年齢の関係に基づき、年齢別漁獲量の推定を行った。

表 1. ブリの銘柄別の漁獲重量

	日本海		太平洋		
	深浦	新深浦町	八戸	尻労	尻屋
ブリ	4kg以上	4kg以上	6kg以上	4kg以上	4kg以上
ワラサ	1.5～4kg未満	1.5～4kg未満	2.5～6kg未満	2.5～4kg未満	1.5～4kg未満
フクラギ	0.5～1.5kg未満	0.5～1.5kg未満	—	—	—
イナダ	0.5kg未満	0.4～0.5kg未満	1～2.5kg未満	2.5kg未満	1.5kg未満
ワカシ	—	—	1kg未満	—	—
シヨッコ	—	0.4kg未満	—	—	—

表 2. ブリの月別規格銘柄と年齢の関係

月	シヨッコ 0.3kg未満	イナダ 0.4kg	フクラギ 0.5kg～1.5kg	ワラサ 1.5kg～3kg	ブリ 5kg未満	ブリ 5kg以上
1	1歳	1歳	1歳	2歳	3+歳	3+歳
2	1歳	1歳	1歳	2歳	3+歳	3+歳
3	1歳	1歳	1歳	2歳	3+歳	3+歳
4	1歳	1歳	1歳	2歳	3+歳	3+歳
5	1歳	1歳	1歳	2歳	3+歳	3+歳
6	1歳	1歳	1歳	2歳	3+歳	3+歳
7	0歳	0歳	1歳	2歳	3+歳	3+歳
8	0歳	0歳	1歳	2歳	3+歳	3+歳
9	0歳	0歳	1歳	2歳	3+歳	3+歳
10	0歳	0歳	0歳	1歳	2歳	3+歳
11	0歳	0歳	0歳	1歳	2歳	3+歳
12	0歳	0歳	0歳	1歳	2歳	3+歳

結果と考察

青森県のブリ漁獲量は、1990年頃から増加し、2012年に過去最高の9,970トンとなったが、変動が大きく2016年から減少した。2016年以降は2022年に920トンと大きく落ち込んだものの、2,000トンから3,000トン前後で推移しており、2024年の漁獲量は3,102トンであった（図1）。海域別漁獲量をみると、日本海の漁獲量は、変動はあるものの2014年から千トン台で推移し、2022年に576トンと大きく減少したものの2024年には1,709トンと2014 - 2021年の水準に戻った（図1）。漁業種類別に見ると、2005年からまき網による漁獲量が急増しており、2012年に過去最高の8,389トンを漁獲したが、2016年から大きく減少し、2024年のまき網による漁獲は5トンであった（図2）。現在は定置網が主体で、2024年の漁獲量は2,823トンとなっている。

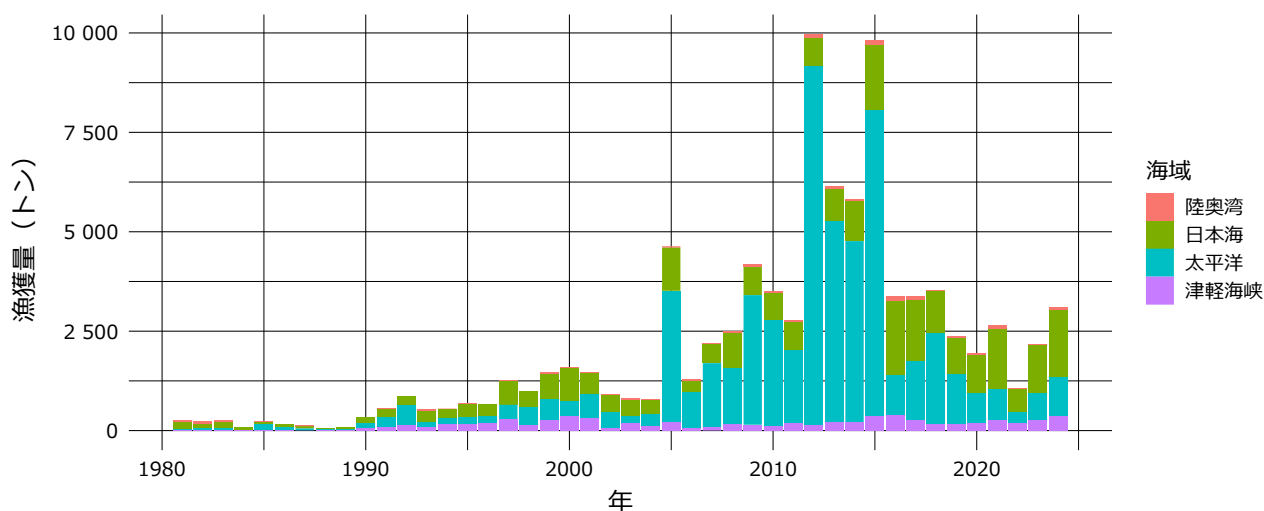


図 1. 青森県におけるブリの海域別漁獲量

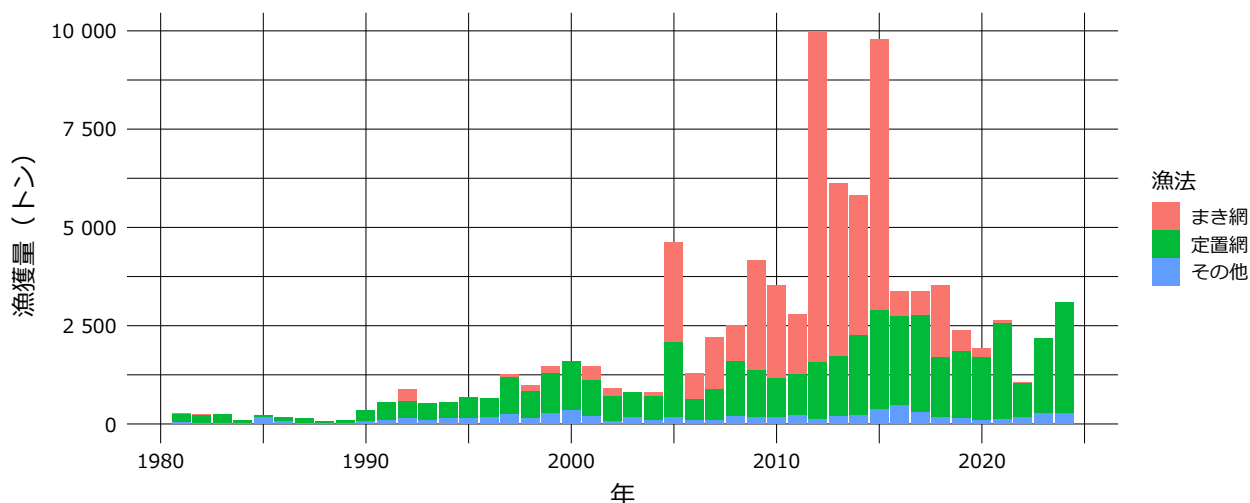


図 2. 青森県におけるブリの漁業種類別漁獲量

青森県太平洋の定置網による銘柄別漁獲量の推移を見ると、イナダ・ワカシ銘柄の割合は年によって大きく変化しており、60 %以上となる年（2017 - 2023 年等）もあるが、逆に 30 %未満となる年（2008、2014 年等）もあった（図 3）。2024 年における銘柄別漁獲量の割合は、ワカシが 21 %、イナダが 34 %、ワラサが 34 %、ブリが 10 %となっており、前年と比べて漁獲量は減少したものの組成はほとんど変化がなかった。

青森県日本海の定置網による銘柄別漁獲量の推移を見ると、フクラギ・イナダ・ショッコ銘柄の割合は年によって大きく変化しており、60 %以上となる年（2020 - 2021 年等）もあるが、逆に 30 %未満となる年（2016、2018 年等）もあった（図 4）。2024 年における銘柄別漁獲量の割合は、ショッコとイナダが 1 %未満、フクラギが 20 %、ワラサが 56 %、ブリが 22 %と、ワラサが多くなっていた。

青森県日本海と太平洋の定置網の漁獲動向は、2005 年の増加等の一部を除き類似性は高くないものの、漁獲量は 2022 年に大きく減少し 2023 年に回復、2024 年は前年と同水準という点で一致していた。青森県太平洋沿岸で漁獲されるブリには、日本海から津軽海峡経由で来遊する群と、太平洋沿岸を北上する群があるが、日本海からの来遊状況は津軽暖流の張り出しの影響を受けることが報告されている²⁾。この来遊状況の変化が青森県日本海と太平洋の定置網の漁獲動向に変化をもたらしたと考えられた。

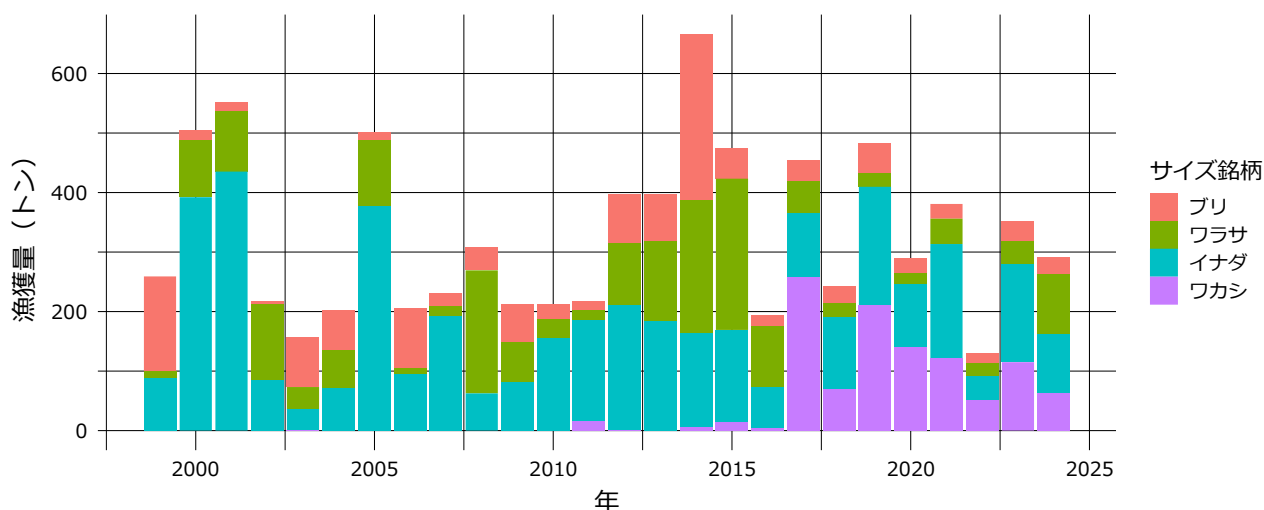


図 3. 太平洋（八戸市、尻屋漁協、尻労漁協）の定置網によるブリの銘柄別漁獲量の推移

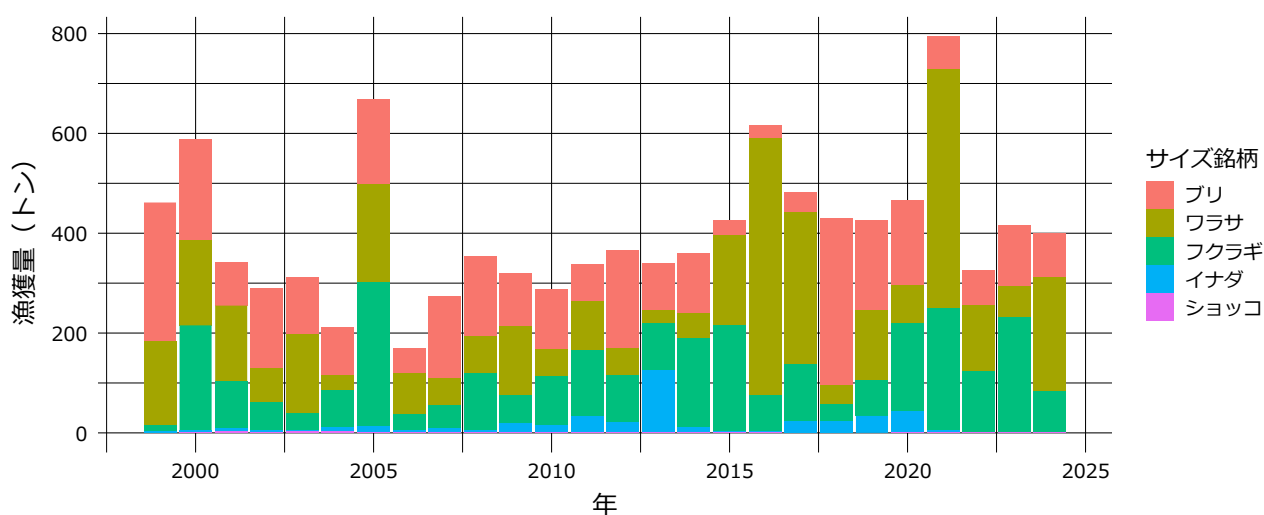


図 4. 日本海（新深浦町漁協本所と深浦漁協）の定置網によるブリの銘柄別漁獲量の推移

青森県日本海の定置網のブリ漁獲物は、どの年齢も広く漁獲されているものの、年によって漁獲状況は異なっている（図 5）。0 歳魚は 2005 年から 2009 年にかけて 17 - 34 トンと低く、2010 年から 2014 年にかけては 64 - 204 トンと高くなっていた。1 歳魚は 50 トン前後で推移しているものの漁獲量の変動が激しく、2005、2015 年には 200 トン以上の漁獲があった。2 歳魚は 100 トン前後で推移しているものの、2016、2017、2021 年には 300 トン以上の漁獲があった。3 歳魚については 2 歳魚より少ないものの、2018 年に 300 トン以上の漁獲があった。近年は、2021 年に 0 歳魚が少なかったものの、概ね全ての年齢で漁獲があり、2024 年には 0 歳魚が 7 トン、1 歳魚が 96 トン、2 歳魚が 210 トン、3 歳魚が 86 トンであった。ブリの年齢別漁獲量は年変動が大きいことから、毎年調べていくことが必要と考えられた。

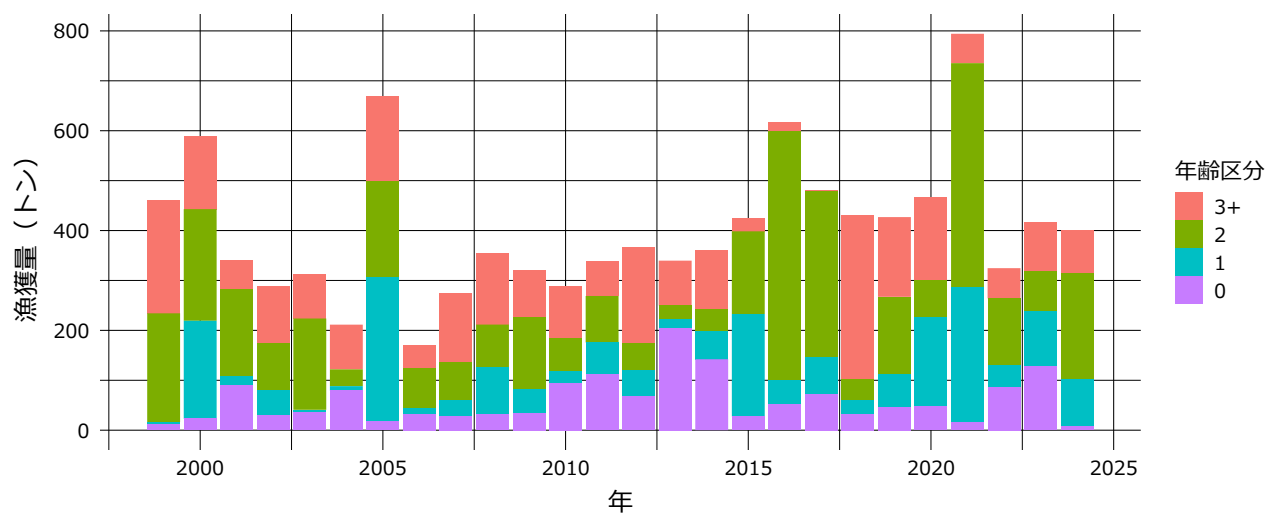


図 5. 日本海（新深浦町漁協本所と深浦漁協）の定置網によるブリの年齢別漁獲量の推移

文 献

- 1) 青森県農林水産部水産局水産振興課（2024）青森県海面漁業に関する調査結果書.
- 2) 阪地英男・横澤祐司・田英軍（2012）ブリ漁獲量の長期変動と近年の動向. 黒潮の資源海洋研究, 第 13 号, 37-42.